

令和 7 年度

第 2 回恵那市廃棄物減量等推進審議会

ごみ減量化の取組みについて

令和 7 年 12 月 24 日
水道環境部 環境課

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



○背景

当市では可燃ごみを焼却せず、RDF（固形燃料）として処理しているが、RDFの製造や利用には化石燃料由来のエネルギーが必要であり、温室効果ガスの排出につながることから、環境負荷の低減が課題となっている。

このため、環境負荷の低減と資源循環の推進に向けて、資源化が可能な品目（生ごみ、プラスチック、紙ごみ、紙おむつなど）を適切に分別し、その他の可燃ごみも含めたごみの排出を抑制することが重要である。これらは堆肥化や再生利用、分別回収によって地域内で循環できるため、持続可能なまちづくりに向けた重要な取り組みである。



生ごみ pista.jp - 66128617



プラスチック



雑がみ



紙おむつ

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



ごみ減量の取り組み

家庭（可燃ごみ）



分別して出すことで

堆肥、衣料品、ダンボール、再生パルプ、RDF等

議題 1 ごみ減量化の取組みについて

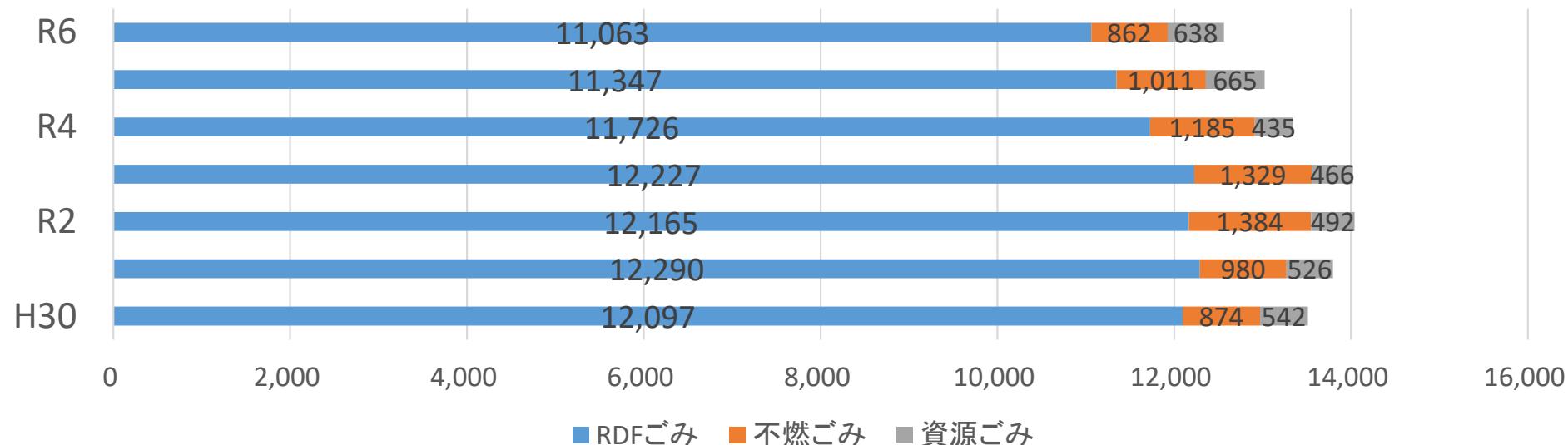


○恵那市一般廃棄物処理基本計画

・目標値

項目	H28	R4	R14	R6(実績)
ごみ排出量(年間)	15,503t	14,000t 以下	12,300t 以下	12,563t
再生利用率	63.0%	63.4% 以上	64.0% 以上	64.4%
最終処分量(年間)	572t	550t 以下	490t 以下	705t

(参考)ごみ処理量の推移(t)



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



○コミュニティで行う生ごみの減量化について

スマートコンポスト



株式会社komhamのサイトより引用

- ・ サイズ (キャスター込み) : 980 (W) × 1365 (H) × 900 (D) mm
- ・ 重量 : 約200kg
- ・ 耐用年数 : 8年
- ・ 30~40世帯を想定
- ・ 1日最大10Lの処理能力
- ・ 外部電源、水道不要 (上部でソーラー発電)
- ・ 通信機器によりエラーがあれば自動送信される
- ・ ロック機能もあり使用者を制限できる
- ・ 1日で生ごみの98%を高速分解 (堆肥化はごく少量)

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



○コミュニティで行う生ごみの減量化について

- ・地域拠点としてのスマートコンポストを設置

メリット

- ・生ごみがいつでも出せる
- ・堆肥が出ないため、その扱いに困らない

デメリット

- ・処理機の管理が必要（データ受信）
- ・処理機周辺に多少の臭気が発生
- ・費用が高額：イニシャル 385 万円程度
ランニング 48 万円程度（年間）
- ・適切な管理のため、使用者への講習が必要

○期待する効果

- ・エコセンターでの生ごみ処理量の減少
- ・温室効果ガスの削減（ゼロカーボンの取組み）
- ・コンポストの設置によるPR効果で市民の環境意識の醸成

※ 地域拠点だけでなく、市全域での取り組みを考える必要がある。

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



（仮称）恵那環境みらいらぼ
～これからのごみの減量化、資源化をみんなで考える～



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



○第2次恵那市環境基本計画

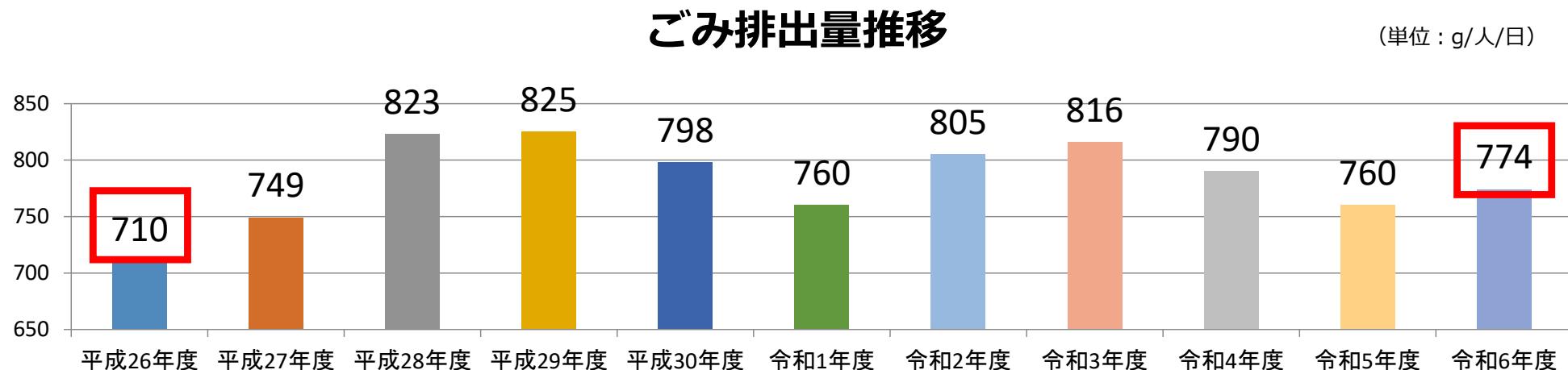
- ・基本目標 2：環境負荷の少ない循環社会を構築する
- ・現状の課題：1人当たり1日のごみ排出量は、基準年（H26）と比較して上昇している。

※第3次恵那市環境基本計画を策定中
環境審議会で審議し、令和7年度中に策定予定

第2次恵那市環境基本計画の目標指標

：市民1人当たり1日のごみ排出量（g/人/日）の減少 (総務省ダッシュボードより)

※ごみ排出量＝すべてのごみの年間排出量/365日/総人口



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



ごみ減量化に対する課題

○令和6年度 ごみ質試験結果報告書（組成調査）

（1）ごみの種類組成分析（リサイクル可能な紙 18.1% 、厨芥類（生ごみ）16.4%）

（2）成分（水分37.6%）

・現状の課題：リサイクル可能な古紙が分別できていない。生ごみの混入が多く、水分量が多い。



○実施している排出抑制・再資源化方法（一般廃棄物処理実施計画）

・資源集団回収、地域資源回収拠点での回収

・生ごみの減量化

生ごみ3きり（水切り、食べきり、使い切り）運動普及啓発

家庭内処理を普及推進するため生ごみ処理機等の購入補助

県による「ぎふ食べきり運動」の取り組みである、宴会時の「30・10運動」を推進



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



ごみ減量化に対する市民の役割

○一般廃棄物処理実施計画

一般廃棄物（ごみ）の排出抑制の方策に関する事項

【市民の役割】

ごみの資源化・有効活用の施策について協力する責務を負っており、ごみの減量への取り組み、地域、その他適正処理に関する国及び地方公共団体資源回収拠点の利用促進及び資源回収の促進等を積極的に実施するものとする。

上記を踏まえ、ごみの減量化、資源化を市民と一緒に取り組むことにより、ゼロカーボン（脱炭素）を目指す。

SDGsの関連目標



・11.住み続けられるまちづくりを

理由:資源循環の仕組みは、生活環境の質を維持し、衛生的で安全なまちづくりに不可欠

・12.つくる責任 つかう責任

理由:ごみの減量化や資源化は、持続可能な生産・消費パターンを実現し、資源の有効利用を促進する。

・13.気候変動に具体的な対策を

理由:ごみの削減や資源化によるCO₂排出抑制は、気候変動対策に直結する。

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼのコンセプト

市内のごみ減量化・資源化の課題を市民、学生、事業者などが
学び、考え、伝えることで、環境の未来を創る。

これまでの進め方

①市役所が現状の課題を踏まえ将来計画を考える

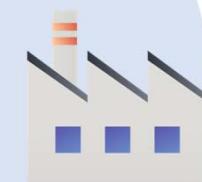


②政策・ルールに従って行動する



行政と市民、事業者等との意識にギャップがあった。

(仮称) 恵那環境みらいらぼの進め方



壁を取り払い一つの輪となって考えていく

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼの取組み

①学ぶ



(仮称) 恵那環境みらいらぼ・たねまき

②考える



(仮称) 恵那環境みらいらぼ・そだてる

③伝える



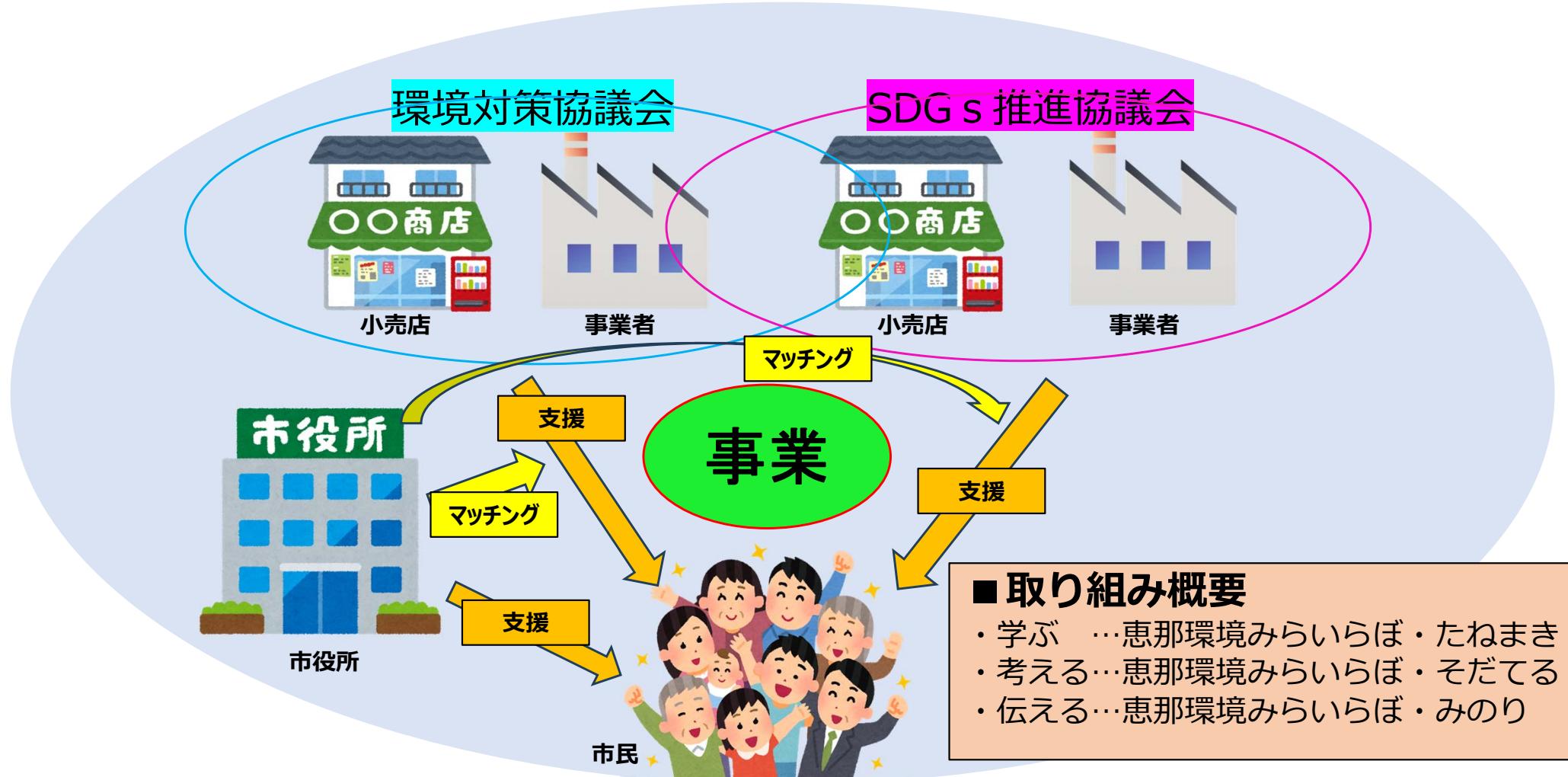
(仮称) 恵那環境みらいらぼ・みのり

※このプロジェクトは繋がりがあることを植物の成長過程をイメージし表現

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼのイメージ



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼ・たねまき (学ぶ)

内容：環境について体験しながら学べるワークショップ型講座

対象：中学生以上（例 恵那農業高校生徒等）

人数：50名程度

目的：ごみ減量化、資源化を含めた環境の現状や課題、取組みについて学ぶ

■ 内容：

生ごみ/フードロス



地域全体の話



古紙リサイクル



プラスチック



■ 講師：

五段農園：高谷裕一郎氏
～堆肥化の話～



ごみの学校：寺井正幸氏
～地域ごみの循環～



その他市内のリサイクル業、製造業など（環対協、SDGs 推進協議会等）にも打診

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼ・そだてる (考える)

内容：ごみ減量化、資源化に関する現状、課題を理解した上で、学んだことを活かして何が必要か？何ができるか？を考えるワークショップ

構成：恵那環境みらいらぼ・たねまきから選出+事業者（環境対策協議会、SDGs推進協議会等）+学校等+環境関連団体等

目的：ごみ減量化、資源化に関する市民、事業者、行政の取組みについて考え、実行に移すほか、廃棄物減量等推進審議会へ提案

■主な検討内容（例）

- ・生ごみの排出抑制（自家処理、食材の使い切り等）
- ・分別の徹底、事業者と連携した食品廃棄物の削減
- ・ごみ減量、資源化に対する市民意識の醸成

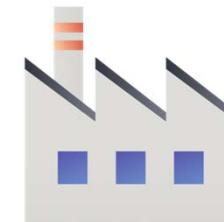
■内容：環境の未来を考えるワークショップ



■参加者



みらいらぼ・たねまき
から数名選出



事業者



小売店

多様な参加者が集まり、できることや、
やりたいことを話すことで次の行動へ移しやすくする

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼ・みのり (伝える)

内容：ごみ減量化、資源化の推進に向けて恵那環境みらいらぼ・そだてるのアイデアを実行

構成：恵那環境みらいらぼ・そだてるのメンバーを基本とし、行政などが支援

人数：テーマ別に実行チームを構成

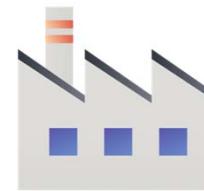
※市政に反映するような内容については、恵那環境みらいらぼ・そだてるで、再度考え、廃棄物減量等推進審議会へ提案する。

発信：SNS、ホームページ、え～なび、みらいらぼ通信、関係する事業者による横展開等

■内容：環境の未来を考えるワークショップ



■支援：



行政や事業者などが財源、技術等を支援

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



協賛／企業版ふるさと納税

本事業については、企業協賛／企業版ふるさと納税の仕組みを活用し、企業協賛型での事業を実施していくプロジェクトです!!

■企業協賛枠

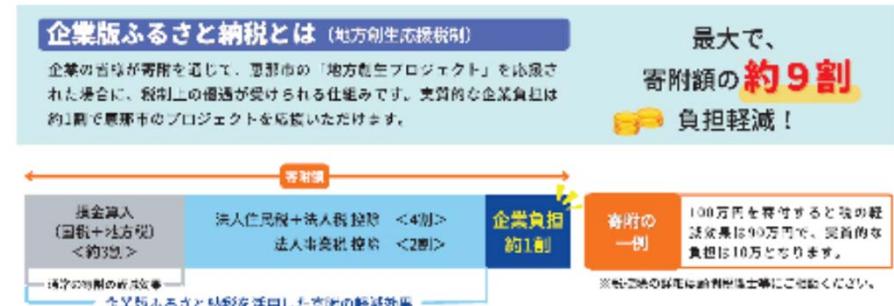
(恵那市外企業は企業版ふるさと納税の対象)



目標企業数：5社程度（100万円）
1口10万円～50万円

資源循環に関する先進事例（京都府亀岡市）
・「めぐるひろばプロジェクト」3,000千円

■企業版ふるさと納税で協賛 「税額控除の仕組みについて」



50万円／年の寄付の場合、
5万円が実質企業負担額
(恵那市に本社を構える企業は対象外)

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



協賛メリットの例について（中小企業向け）

50万円寄付
自己負担：5万円

社会貢献による企業価値の向上
・市公式ホームページや
SNSでの企業紹介

自社社員のプログラム参加
による人材育成/環境意識向上
地域へのつながりの醸成

市をフィールドにした
実証実験をサポート

30万円寄付
自己負担：3万円

社会貢献による企業価値の向上
・市公式ホームページや
SNSでの企業紹介

自社社員のプログラム参加
による人材育成/環境意識向上
地域へのつながりの醸成

10万円寄付
自己負担：1万円

社会貢献による企業価値の向上
・市公式ホームページや
SNSでの企業紹介



恵那市
Ena City



議題 1 ごみ減量化の取組みについて



(仮称) 恵那環境みらいらぼのスケジュール

2026 (R8)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2027	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
恵那環境みらいらぼ・ たねまき ※学ぶ	●募集	●ワークショップ型講座 <ul style="list-style-type: none"> ・恵那市のごみの現状と課題を知る ・生ごみの削減と堆肥化の実践 ・古紙リサイクルと地域資源循環 ・プラスチックゴミと廃プラリサイクル等 												●募集	●ワークショップ型講座 <ul style="list-style-type: none"> ・恵那市のごみの現状と課題を知る ・生ごみの削減と堆肥化の実践 ・古紙リサイクルと地域資源循環 ・プラスチックゴミと廃プラリサイクル等 											
恵那環境みらいらぼ・ そだてる ※考える		●ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量、資源化に対する市民意識の醸成 ・生ごみの排出抑制（自家処理、食材の使い切り等） ・分別の徹底、事業者と連携した食品廃棄物の削減等 <p>※市政に反映する取組みは「恵那環境みらいらぼ・そだてる」から恵那市廃棄物減量等推進審議会へ提案・予算化</p> <p>※毎年、「恵那環境みらいらぼ・たねまき」の受講者を加えながら仲間を増員や、構成員を見直す</p>																								
恵那環境みらいらぼ・ みのり ※伝える		●ごみ減量、資源化に向けた具体的な取組み													●生ごみの排出抑制（自家処理、食材の使い切り等）											

※新しいアイデアを生み出し、新たな人材を育成するため、2年サイクルで構成員の見直しを行い、プロジェクトを継続する。

議題 1 ごみ減量化の取組みについて



KPIについて

恵那市の目標：2032年までに家庭系ごみを2016年度比で 21%削減

※環境省の目標：2030年までに家庭系ごみを2000年度比で約 20%削減

年度	総排出量	家庭系ごみ	削減量/年度	備考
2016 (平成28年度)	15,503トン	9,302トン	—	
2022 (令和4年度)	13,346トン	8,008トン	—	
2024 (令和6年度)	12,563トン	7,538トン	—	
2032 (令和14年度)	12,300トン	7,380トン	32.9トン/年	

※一般廃棄物基本計画の目標値

総排出量（2024）-総排出量（2032目標値）

=12,563トン-12,300トン=263トン

263トン×16千円/トン※=4,208千円/年 の経費削減効果が生まれる

※ 家庭系ごみを総排出量の60%で計算

1トン当たりのごみ処理費用（実績）=16千円（※施設維持費等の固定費を除く光熱水費等）